

京都府南部地域豪雨災害から1年を迎えて

昨年8月13日・14日に発生した京都府南部地域豪雨では、河川の氾濫等によりまして、本市では、死者2名、家屋の全壊、床上・床下浸水の被害や道路への崩土、山腹の崩壊など、近年にない甚大な被害が発生をいたしました。

亡くなられた方に対しましては、心より哀悼の意を表しますとともに、全ての被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

これまでの間、国や京都府、周辺自治体、及び、各関係機関を初め、多くのボランティアの方々のご支援を得て災害復旧に取り組んでまいりました。

多大なご支援を賜りました多くの方々に、改めて厚くお礼を申し上げます。

現在、本市では、この災害からの復旧を、市政の最優先課題と位置付け、災害復旧計画に基づき、着実な事業展開を図るとともに、災害復旧対策室を新たに設置いたしました。

豪雨災害による被害は、本市に、大きな爪痕を残し、本格復旧への道のりは決して平坦ではありませんが、一日でも早い市民生活の回復を図って参りますとともに、「災害に強い安全・安心の宇治づくり」を推進するため、これからも全力をあげて取り組んで参る所存でございます。

また、この災害を強く心に刻み、決して風化させることなく、しっかりと後世に伝え続けていくことが、私に課せられた責務でございます。

こうした観点から、本日は、早朝から職員対象の参集訓練や災害対策本部会議運用訓練、避難所開設訓練を実施いたしましたほか、これまでの間、豪雨災害の教訓を踏まえ、本市危機管理体制の強化や本市地域防災計画の大幅改定など、様々な取り組みを行ってまいりました。

今後、さらにこうした各種の取り組みを継続して進めてまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、私たちは、お二方の尊い犠牲やこの災害を決して忘れることなく、これからも市民の皆さんと一丸となって、安全と安心のまちづくりのため、最善を尽くしてまいりたいと考えております。

今後とも、市民の皆さま並びに関係者の皆さまにご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成25年8月14日

宇治市長 山本 正